

平成25年9月の「思いやり通信」

太陽光発電 コスト半減

ー 政府目標 2020年に石油火力逆転



政府は太陽光発電のコストを10年間で半減する目標を掲げます。

1キロワットの出力で1時間、電気を作るコストを2020年に2010年の半分以下の14円に下げます。石油火力発電を下回る水準です。

太陽光パネルをより安く製造できる素材の実用化などの技術開発に政府予算を集中させ、再生可能エネルギーの普及を後押しします。

(2013年7月31日 日本経済新聞記事から抜粋)

太陽光、稼働まだ1割 ー 計画倒れの恐れも

高値買い取りで発電能力は5倍



経済産業所は、2012年度の再生可能エネルギーの導入状況を発表しました。

太陽光発電の新設計画は2011年度までの国内の発電能力の5倍に達しました。

再生可能エネルギーを高値で買い取る制度が2012年7月に始まり、発電業者が申請を急いだため。ただ、稼働済みは1割程度で、計画倒れに終わる恐れもあります。

(2013年8月21日 日本経済新聞記事から抜粋)

テーマは「思いやり」 エコライフについて考えます。

思いやり通信 NO. 2

住宅街 丸ごと省エネ — 政府 2~3万戸の電力分析

新事業も創出



政府は来年度、住宅街を丸ごと次世代省エネ住宅「スマートハウス」に切り替える実証実験事業に乗り出します。

2~3万戸に、家電などの消費電力を随時把握できる機器を導入。電機の使い方を分析して省エネに役立てるほか、一人暮らしの高齢者の見守りなど新たな事業モデルをつくります。

※スマートハウス

家電などをネットワークで結び、エネルギー消費を最適化できるようにした住宅。

(2013年8月28日 日本経済新聞記事から抜粋)

